



木曾川下流自然観察会

<http://owari.eco.cocacn.jp/kisogawa.html>

日時 2018年1月14 (日) 9:30~12:00 (共済)

参加者 一般:3名 (うち子ども1名)

指導員:4名

テーマ 「冬芽と昆虫の越冬」

今日のテーマは葉が落ちて見えてくるものです。日陰に薄っすらと雪が残る中、遠くに雪を冠った御嶽山や伊吹山を眺めながら、冬芽や葉痕、越冬昆虫などを探して回りました。

まずは園内のコブシとハナミズキの冬芽を見ました。葉がある時は隠れていましたが、今の時期、膨らんだ花芽がよく目立ちます。

次に川原においてセンダン、シンジュ、オニグルミの葉痕を見ました。いずれも葉痕部分が大きく、導管や師管のあともよく分かり、その形が動物の顔のようにも見えます。

メドハギの茎にはハラヒロカマキリの卵囊がついていました。カマキリの仲間は卵で越冬します。

少し先のクワの枝に、長さ5~6センチの繭がいくつもぶら下がっていました。初めて見るもので、シンジュサンの繭に似ているものの、それならまだ中に蛹があるはずですが、空になっていましたので、別のガのもので。参加者で何の繭だろうかと議論しましたが、クワの葉を食べるなら、蚕の原種といわれるクワコではなかろうかということになりました。近くの別のクワにはもう少し小ぶりな4センチ程の繭も見られました。しばらくこちらまで足を伸ばさなかったのが、見落としていました。今年の夏には、クワコの幼虫をじっくり見てみたいと思います。

公園に戻ってトウカエデの樹皮の下を見ると、オオキノコムシの仲間は数頭寄り添って越冬していました。テントウムシなどと同じく成虫越冬なのですね。エノキの幹の窪みではヨコツナサシガメの幼体が多数集まって越冬していました。根本にゴマダラチョウの幼虫がいないか、落葉めくりをしてみました。昨年、数頭見つけた所ですが、今回は見つけられませんでした。

園内は雪のため樹冠回廊が閉鎖されていましたが、人が通らないためかその付近にイカルの50羽程の大群が地上に落ちている木の葉をついばんでいるところをじっくり見られました。シメ、カワラヒワ、カシラダカといった野鳥も見られ、野鳥観察が堪能できました。(報告:齋竹)

<その他観察できたもの>

鳥:カワウ、キジバト、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、シロハラ(声)、ハクセキレイ、シジュウカラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

虫:チャミノガ

花:ソシンロウバイ、ウメ、セイヨウタンポポ、ニホンタンポポ



(観察会のようす)



(クワコの繭)



(成虫越冬のキノコムシの仲間)



(イカルの群)